

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

小学生部門

私のお父さんは、料理が下手なのに、よく晩ご飯を作りま
す。そのたびに、「おいしいか？おいしいか？」と聞いてきま
す。「おいしくない。」「と言つと怒るので言えません。けど、そ
の日の夜に、お父さんが料理の本を読んでいるのを見て、今
までお父さんの料理がまずいからきらいだと思っていた自分
が、少しはすかしくなりました。お父さんは、がんばって料理
を作っているんだなあと思いました。こんど一緒に晩ご飯を
作りたいなと思いました。

がんばれ、お父さん

マンガ/takashi-f

注目!

夢育ポイント

「正直が一番」「思いやりが大切」「努力は裏切らない」など、子どもに伝えたい言葉はたくさんありますが、こうあってほしいという親の思いを言葉で伝えても、なかなか子どもに届かない、響かないと感じることってありませんか。そこで、ヒントにしたいのが、この日記です。

料理の本を一生懸命読んでいる父の姿を見て、はっとする主人公。大きな変化（成長）が訪れた瞬間です。「親は子どもの前で努力を見せる、隠さない、行動で示す」、これが今回の夢育ポイントです。ただし、「すごいだろう」「がんばっているだろう」という押しつけはお薦めしません。昔から「親の背中を見て育つ」と言いますが、子どもが自ら気づく瞬間を待ちたいです。ね。（中山芳一）